

# 創立期支援者のおはなし

国士館は、教育の趣旨に賛同するさまざまな人々の支援によって、支えられてきました。創立期の支援者の一端を、1枚の写真からみてみましょう。

## 国士館を支えた人々 — 創立期の長老たち

大正10年に発足した国士館維持委員会には、各界の名士が集い多方面で国士館を支援します。なかでも、創立期における最大の支援者たちが、一堂に会した1枚の写真がここに残っています。なお、写真左奥の建物は、北区飛鳥山公園内に現存する渋沢栄一郎の晩香廬(バンガロー)です。



1926(大正15)年6月3日 国士館完成長老懇談会  
於渋沢栄一郎

### ① 頭山満 (とうやま みつる) 1855-1944

福岡県出身。西欧の大国に対抗したアジア主義を唱え、政治団体「玄洋社」を創設し、民間の立場から各方面に多大な影響を与えた。同郷の縁から柴田徳次郎を助け、国士館創立時より募金活動のほか多方面にわたり支援を行った。

### ③ 渋沢栄一 (しぶさわ えいいち) 1840-1931

埼玉県出身。日本資本主義の父といわれる実業家。第一国立銀行をはじめ多数の企業や学校の創設と発展に尽力。自邸での国士館維持委員会の開催を期に参画し、多額の寄付に加えて、委員会の開催に邸宅を提供するなど国士館を支えた。

### ② 野田卯太郎 (の だ う た ろ う) 1853-1927

福岡県出身。号を大塊。通信大臣や商工大臣などを歴任した政治家。柴田徳次郎が、上京後に牛乳配達などで苦学した時から個人的に支援。国士館創立後は、顧問として中学校や専門学校の設置に尽力。大講堂内には、自筆の蘭図が残る。

### ④ 徳富猪一郎 (とくとみ いちろう) (蘇峰) 1863-1957

熊本県出身。号を蘇峰。『国民新聞』などを創刊したジャーナリスト、評論家。生涯にわたって執筆活動を行った。国士館の創立時より講師を務め、歴史の講義を担当するなど、長く国士館を支えた。作家の徳富蘆花は、実弟。